

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 2019年6月26日

【事業年度】 第59期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

【会社名】 株式会社仙台カントリークラブ

【英訳名】 Sendai Country Club Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菅原 一博

【本店の所在の場所】 宮城県名取市愛島笠島字南北沢1番地の8

【電話番号】 (022) 383 3636(代表)

【事務連絡者氏名】 人事・経理部長 大久 滋 幸

【最寄りの連絡場所】 宮城県名取市愛島笠島字南北沢1番地の8

【電話番号】 (022) 383 3636(代表)

【事務連絡者氏名】 人事・経理部長 大久 滋 幸

【縦覧に供する場所】 該当なし

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
決算年月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月
営業収益 (千円)	459,251	506,061	495,446	501,052	516,716
経常利益 (千円)	21,800	36,793	10,043	10,084	19,531
当期純利益 (千円)	64,435	54,645	4,997	7,096	11,085
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	770,000	770,000	770,000	770,000	770,000
発行済株式総数 (株)	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400
純資産額 (千円)	2,203,217	2,257,862	2,262,860	2,269,957	2,281,042
総資産額 (千円)	2,744,143	2,719,152	2,692,286	2,701,247	2,703,678
1株当たり純資産額 (円)	1,573,726.95	1,612,759.11	1,616,328.90	1,621,397.86	1,629,316.10
1株当たり配当額 (1株当たり 中間配当額) (円)	[]	[]	[]	[]	[]
1株当たり当期純利益 金額 (円)	46,025.41	39,032.15	3,569.79	5,068.95	7,918.23
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 金額 (円)					
自己資本比率 (%)	80.2	83.0	84.0	83.8	84.3
自己資本利益率 (%)	2.9	2.4	0.2	0.3	0.4
配当性向 (%)					
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	51,101	97,077	36,371	68,952	66,523
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	29,143	92,687	52,492	30,556	42,900
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,001	7,985	7,876	8,171	8,639
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	274,943	271,348	247,350	277,575	292,558
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (人)	44 [9]	45 [10]	45 [8]	42 [13]	41 [13]

- (注) 1 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 営業収益には、消費税等は含まれておりません。
- 3 持分法を適用した場合の投資利益の金額については、関連会社がないため記載しておりません。
- 4 第55期から第59期まで潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。
- 5 非上場会社であるため株価収益率、株主総利回り、比較指標、最高株価、最低株価は記載しておりません。
- 6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第59期の期首から適用しており、第58期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(最近5年間の株主総利回りの推移)

証券取引所非上場、証券業協会非登録のため、該当事項はありません。

(最近5年間の事業年度別最高・最低株価)

証券取引所非上場、証券業協会非登録のため、該当事項はありません。

2 【沿革】

- 1960年9月19日 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉山内に資本金70,000千円をもって会社を設立する。
- 1960年11月15日 増資70,000千円を行い、資本金は140,000千円となった。
- 1961年6月10日 増資75,000千円を行い、資本金は215,000千円となった。
- 1961年11月5日 9ホールズで仮オープンする。
- 1962年8月25日 18ホールズの全コースをオープンする。
- 1963年3月5日 増資25,000千円を行い、資本金は240,000千円となった。
- 1981年8月1日 宮城県よりゴルフ場土地を賃借する契約を締結する。
- 1997年3月31日 宮城県が土地賃借契約の終了を主張したため、同年12月25日仙台法務局へ賃借料を供託する。
- 1997年10月18日 増資430,000千円を行い、内200,000千円は資本準備金に組入れし、資本金は470,000千円となった。
- 1997年12月8日 宮城県よりゴルフ場用地の明渡し訴訟が提起される。
- 2003年4月8日 仙台地方裁判所によって宮城県と和解が成立する。
- 2004年9月10日 株式会社大林組・宮城グリーン開発株式会社と総額22億円(消費税別)で名取ゴルフ倶楽部を2005年4月1日付で取得する譲受契約を締結する。
- 2004年12月19日 仙台カントリー倶楽部「青葉山コース」営業を終了。
- 2004年12月31日 従業員を全員解雇する。
- 2005年1月31日 宮城県に土地を明渡す。
- 2005年2月1日 宮城県名取市愛島笠島字南北沢1-8 仮事務所に移転。
- 2005年2月3日 宮城県への明渡し立会検査完了。
- 2005年3月4日 宮城県より和解金20億円受領。
- 2005年4月1日 株式会社大林組・宮城グリーン開発株式会社に対して「名取ゴルフ倶楽部」土地・建物・付属建物総額22億円を支払い、所有権移転登記完了。
- 2005年4月7日 仙台カントリー倶楽部「名取コース」営業開始。
- 2005年4月8日 株式会社大林組を割当先とする第三者割当増資600,000千円を実施、資本金770,000千円となった。

3 【事業の内容】

当社の主要な事業は、ゴルフ場の経営であり、18ホールズのゴルフコース並びにクラブハウス等の運営、維持管理に努め、利用者に快適なプレー環境を提供できるよう取り組んでおります。

4 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2019年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
41(13)	51.9	8.5	3,221

事業部門の名称	従業員数(名)
営業部門(営業・フロント)	4 (2)
キャディ部門(マスター室・キャディ)	13 (1)
レストラン部門(厨房・サービス)	7 (6)
コース管理部門	12 (0)
全社(共通)	5 (4)
合計	41(13)

- (注) 1 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の平均雇用人員であります。
 3 当社は、単一セグメントであるため、事業部門別の従業員数を記載しております。
 4 全社(共通)は、総務、経理、庶務等の管理部門の従業員であります。
 5 臨時従業員には、パートタイマー契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。

(2) 労働組合の状況

当社には労働組合は結成されておらず労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社の経営の基本方針

当社は、基本理念として、高い品質のサービスを通じて快適な空間と環境を創造するため、「安心・安全・快適・喜び・感動」を提供し、すべてのお客様に喜んでいただくことを目指してまいります。

(2) 会社が対処すべき課題と経営戦略

ゴルフ場を取り巻く今後の事業環境は、ゴルファーの高齢化や若年層の利用率低下、競合コースとの競争激化など、入場者数の増加、価格維持の面で厳しい状況が続くものと予想されます。また、景気の動向により、個人利用が低迷し、ゴルフ場事業の業績が大きく左右される等、予断の許さない状況が続くことが予想されます。

このような事業環境のもと、当社は、集客力の極大化を目指し、経営資源の最適な配分を実現することで「競争力の強化」、「収益力の向上」に取り組んでまいります。既存のスタイルによる事業は成熟化しており、このままでは事業の拡大は厳しいものとなっていますが、市場の動向と変革に対応して顧客のニーズを的確に把握し、競争優位性の高い商品を開発し、競合ゴルフ場との差別化を図り、スピード感を持った企業運営を行ってまいります。

また、当社は、人材が最も重要な経営資源であり、企業の発展には従業員の成長が不可欠であると考えており、時代に適応した人材育成に努めてまいります。施設関連につきましては、快適なプレー環境の維持向上を図るため、今後とも継続して改修、更新等を行ってまいります。

2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営環境について

ゴルフ場の事業は、景気の変動や個人消費の動向が、入場者数及び営業収益に大きく影響します。また県内では、外資系ゴルフ場を含め低価格による集客競争が激しくなり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 天候による影響について

ゴルフ場の事業は、天候等の要因により大きく左右され、トップシーズンの悪天候、夏季の猛暑、冬季の降雪によるクローズ等によって、入場者数及び営業収益が大きく減少し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 災害発生等の影響について

当社の立地する宮城県では、東日本大震災以降、今後も大きな地震が発生する可能性もあり、その影響や台風の被害、火災による事故、病害虫の大量発生等でゴルフ場全体に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(4) 個人情報の管理について

当社は、会員等及び利用者の情報を管理しております。これらの個人情報が外部に漏洩した場合には、社会信用の失墜等により当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

宮城県内のゴルフ場業界は、依然として旺盛なプレー需要が続いておりますが、プレイヤーの低価格志向は根強く、低価格競争が続いており、厳しい経営環境にあります。

このような環境の中、当社は従来から引き続き各種サービスデーの設定、新規オープンコンペの企画、倶楽部競技の活性化、プレー予約では中長期のデータ管理を徹底し予約率を高める等、来場者の確保に努めてまいりました。また、天候が全般的に良好であったことも寄与し、上半期は前事業年度比101人の増加、下半期では前事業年度比1,782人増加し、年間の入場者数は45,756人(前事業年度比1,883人増)となりました。

当事業年度における営業収益は516,716千円で前事業年度(501,052千円)に比較して、15,663千円増加いたしました。これは主として、入場者数が1,883名増加(営業収益21,264千円増)し、1人当たりの収入単価が128円減少(営業収益5,600千円減)したことによるものであります。

営業費用は499,002千円で前事業年度(491,811千円)に比較して、7,190千円の増加となりました。これは主として、人件費の増加によるものであります。

この結果、営業利益は17,714千円(前事業年度9,241千円)、経常利益は19,531千円(前事業年度10,084千円)、当期純利益は11,085千円(前事業年度7,096千円)となりました。

受注及び販売(入場者数及び営業日数・営業収入・プレー料金)の実績は、次のとおりであります。

入場者数及び営業日数

月別	入場者数(人)	前年同月比(人)	営業日数(日)	前年同月比(日)
4	3,880	43	30	0
5	4,054	39	31	0
6	3,891	236	30	0
7	3,472	49	31	0
8	3,342	228	29	1
9	3,772	142	30	1
10	4,719	651	30	0
11	4,512	8	30	0
12	4,137	326	30	3
1	3,315	771	27	6
2	3,101	274	28	4
3	3,561	248	29	0
計	45,756	1,883	355	13

営業収入

科目	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	対前期比 (%)
	金額(千円)	金額(千円)	
グリーンフィ	111,719	116,267	104.0
年会費	23,081	23,586	102.1
食堂収入	74,040	79,430	107.2
キャディフィ	48,513	50,470	104.0
諸経費	117,145	121,768	103.9
登録名義書換手数料	22,100	18,450	83.4
その他の収入	104,452	106,743	102.1
合計	501,052	516,716	103.1

利用者のプレー料金

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

基本料金 セルフ(税込)

(単位:円)

区分	会員	ビジター	
		平日	土日祝
グリーンフィ		4,104	9,288
諸経費	3,078	3,078	3,078
カートフィ	2,268	2,268	2,268
利用税	870	870	870
連盟協力金	54	54	54
計	6,270	10,374	15,558

キャディフィ(税込)

(単位:円)

4バック	3,024
3バック	3,348
2バック	3,672

貸しクラブ・シューズ(税込)

(単位:円)

貸しクラブ(フルセット)	2,700
貸しシューズ	1,080

(2) 財政状態

(資産の部)

当事業年度末の資産の部合計は、前事業年度末と比較して2,430千円増加し、2,703,678千円となりました。この主な要因は現金及び預金の増加(前事業年度比14,982千円増)によるものと有形固定資産の減少(前事業年度比17,870千円減)、投資その他の資産の増加(前事業年度比6,207千円増)によるものであります。

(負債の部)

当事業年度末における負債の部の合計は、前事業年度末と比較して8,654千円減少し、422,635千円となりました。これは主に未払消費税等の減少(前事業年度比2,031千円減)とリース債務(ゴルフカートに付属するGPS機器類等)の減少(前事業年度比7,639千円減)によるものであります。

(純資産の部)

当事業年度末における純資産の部の合計は、前事業年度末と比較して11,085千円増加し、2,281,042千円(自己資本比率84.3%)となりました。これは当期純利益によるものであります。

(3) キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、営業活動で66,523千円の獲得、投資活動で42,900千円の使用、財務活動で8,639千円を使用しました。

この結果、資金は14,982千円の増加となり、期末残高は292,558千円(前事業年度比5.3%増)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、獲得した資金は66,523千円であり前事業年度比2,429千円減少となりました。これは主に原材料及び商品の仕入、人件費、法人税等の支払額の増加が営業収入の増加を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

前事業年度は有形固定資産の取得で21,283千円の支出、定期保険積立他で7,268千円の支出、長期火災保険料他の支出2,005千円で合計30,556千円の支出、当事業年度は有形固定資産の取得で35,525千円の支出、定期保険積立等の支出7,374千円で合計42,900千円の支出となり、前事業年度と比べ12,343千円の支出の増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

前事業年度はリース債務の返済による支出7,571千円と家族会員退会3名による支出600千円で合計8,171千円の支出、当事業年度はリース債務の返済による支出7,639千円と家族会員退会5名による支出1,000千円で合計8,639千円の支出となり、前事業年度と比べ468千円の支出の増加となりました。

(資本の財源及び資金の流動性に係る情報)

当社の資金は、主に売店販売用の仕入商品、レストラン用食材・飲料の仕入、芝管理に伴う肥料や消耗備品、販売費及び一般管理費等の営業費用並びに設備の新設、改修等に支出されております。これらの必要資金は、自己資金により賄うことを基本方針としております。

なお、重要な資本的支出の予定及びその資金の調達源は「第3 設備の状況 3 設備の新設、除却の計画」に記載しております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当事業年度の主な設備投資は、以下のとおりであります。

(1)建物	男子浴室天井工事	3,500千円
(2)機械及び装置	コース作業機械(2台)	4,920千円
(3)建設仮勘定	散水用井戸掘削工事	19,980千円

2 【主要な設備の状況】

2019年3月31日現在

項目	期末帳簿価額 (千円)	内容	摘要
建物	165,909	クラブハウス、管理棟他	面積 クラブハウス 3,264.82㎡ 管理棟他 1,719.05㎡
建物附属設備	49,135	クラブハウス給排水・衛生・空調設備他	
構築物	128,204	付替水路、駐車場、カート路改修他	
機械及び装置	25,185	芝管理機械他	
車両運搬具	7,409	ゴルフカート他	
工具、器具及び備品	8,933	厨房機器他	
コース勘定	1,099,095	コース造成費用	
土地	587,503	ゴルフ場土地	面積 土地 882,674.08㎡
立木	167,353	コース内植栽	
リース資産	8,897	ゴルフカート搭載用無線機 / GPS 他	
建設仮勘定	19,980	散水用井戸掘削工事	
合計	2,267,608		

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。
なお、建設仮勘定は消費税等は含まれております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1)重要な設備の新設等

事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額(千円)		資金調 達方法	着手年月	完了予 定年月	完成後 の増加 能力
		総額	既支払 額				
仙台カントリークラブ (宮城県名取市)	井戸揚水設備工事	6,450		自己資金	2019年 1月	2019年 4月	
仙台カントリークラブ (宮城県名取市)	OUTコーストイ レ解体及び新築工 事	5,000		自己資金	2019年 2月	2019年 4月	

(注) 1 上記の金額に消費税等は含まれておりません。
2 上記の設備投資計画は、2019年4月に完了しております。

(2)重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000
計	2,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2019年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2019年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,400	1,400	非上場/非登録	単元株制度を採用しており ません。
計	1,400	1,400		

(注) 発行済株式は、全て議決権を有しております。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2005年4月8日(注)	300	1,400	300,000	770,000	300,000	500,000

(注) 第三者割当：資本準備金組入額300,000千円 資本組入額300,000千円

発行価格 1株当たり2,000千円

資本組入額 1株当たり1,000千円

割当先：株式会社大林組

(5) 【所有者別状況】

2019年3月31日現在

区分	株式の状況							
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計
					個人以外	個人		
株主数 (人)		5		322			883	1,210
所有株式数 (株)		10		500			890	1,400
所有株式数の 割合(%)		0.7		35.7			63.6	100.0

(6) 【大株主の状況】

2019年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を 除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社大林組	東京都港区港南二丁目15番2号	47	3.35
株式会社ユアテック	仙台市宮城野区榴岡四丁目1番1号	8	0.57
株式会社東芝	東京都港区芝浦一丁目1番1号	6	0.42
株式会社仙台タクシー	仙台市若林区卸町東五丁目2番38号	6	0.42
株式会社日立製作所	東京都千代田区丸の内一丁目6番6号	5	0.35
日本通運株式会社	東京都港区東新橋一丁目9番3号	5	0.35
株式会社東建工営	名取市杜せきのした一丁目2番地の7	5	0.35
株式会社みちのくゴルフ	仙台市青葉区一番町一丁目4番1号	4	0.28
株式会社河北新報社	仙台市青葉区五橋一丁目2番28号	4	0.28
学校法人菅原学園	仙台市青葉区本町二丁目11番10号	4	0.28
計		94	6.71

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,400	1,400	
発行済株式総数	1,400		
総株主の議決権		1,400	

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
計					

2 【自己株式の取得等の状況】

自己株式の取得等はありません。

3 【配当政策】

当社の剰余金の配当は、期末の年1回を基本的な方針としております。この決定機関は、株主総会であります。剰余金の配当の基準日は、毎年3月31日としており、そのほか、基準日を定めて剰余金の配当をすることができる旨を定款に定めております。当社の配当政策の考え方は、株主のほとんどが会員であるために、それに対する利益還元として、より快適なクラブライフを提供するという理念のもとに会員を最優先とした運営を行っており、十分な内部留保を確保するまでは配当は実施せず、コースの維持管理、施設の充実等に努め、会員により良いプレー環境を提供してまいります。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主会員制のゴルフ場であり、株主会員をはじめゲストの方々に快適なプレー環境を提供すること、また地域社会への貢献と融合を図り親しまれるゴルフ場、自然と共生・調和を図り環境に優しいゴルフ場を目指しております。

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、この基本理念を実現するために、経営の効率性、健全性、透明性を高めるため経営環境の変化に迅速に対応できる組織作り、内部統制システムの確立、法令遵守の確保に努めております。

会社の機関の内容

当社は、会社法に基づく会社の機関として「株主総会」、「取締役会」、「監査役会」、「会計監査人」で構成されております。

「取締役会」は、取締役7名(うち社外取締役3名)で構成されており、経営の基本方針、法令で定められた事項及びその他経営に関する重要な事項を審議し、意思決定の上業務執行を行っております。

また、当社の取締役は15名以内とする旨を定款で定めており、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及びその選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

「監査役会」は、常勤監査役1名と監査役(社外監査役)2名で構成されており、会社の業務及び財産の状況や取締役の業務執行の監督及び会計監査を行っております。また、監査役は会計監査人より半期毎に会計監査の方法と結果の報告を受けるなど、相互連携を図っております。

その他当社ではゴルフ場運営のため、仙台カントリー倶楽部として理事会及び各種委員会を設置し、運営のための重要事項についての審議を定期的に行っており、毎年6月には会員総会を開き重要な事業計画を審議しております。

内部統制システムの整備の状況

当社は、ゴルフ場を円滑に運営する上で、取締役会と理事会が相互に補完し合い、厳格に業務を執行することにより内部統制の充実を図っております。また、企業行動指針として「職務権限規程」を基に社員が日常業務を遂行する上で遵守すべく、全社員にコンプライアンスの徹底、浸透を図っております。

なお、必要に応じて顧問弁護士の助言を得て、適法に対処しております。

リスク管理体制の整備の状況

当社の事業活動に重大な影響を及ぼす恐れのある経営リスクについては、関連部署において事前にリスクの分析、対応策を検討し、取締役及び担当責任者からなる経営会議の場で審議しております。リスク管理については「危機管理対策規程」に基づき、リスクを回避する対策を講じております。

また、リスク管理にあたっては、顧問弁護士等の専門家から必要に応じてアドバイスを受けています。

役員報酬の内容

当社の取締役に対する報酬の額は10,400千円であり、監査役に対する報酬の額は4,200千円であります。なお、社外取締役及び社外監査役は無報酬であります。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うために、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって決議を行う旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性10名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役会長	佐々木 昌 二	1939年11月21日生	1965年3月 1988年10月 1993年6月 1996年3月 2007年6月 2009年6月 2018年6月	東北学院大学文経学部経済学科卒業 ㈱仙台タクシー代表取締役社長(現) タクシーカードシステム㈱取締役(現) ㈱仙台カントリークラブ取締役就任 ㈱仙台カントリークラブ取締役副社長就任 ㈱仙台カントリークラブ代表取締役社長就任 ㈱仙台カントリークラブ取締役会長就任(現)	(注)3	1
取締役社長 (代表取締役)	菅 原 一 博	1946年1月24日生	1971年3月 1986年4月 1995年5月 1996年9月 1997年6月 1997年6月 2005年6月 2005年6月 2017年6月 2018年6月	早稲田大学大学院商学研究科卒業 仙台電子専門学校校長(現) 社団法人全国経理学校協会東北地区会長(現) 学校法人菅原学園理事長(現) ㈱仙台カントリークラブ監査役就任 仙台カントリー倶楽部監事(現) ㈱仙台カントリークラブ監査役退任 ㈱仙台カントリークラブ取締役就任 ㈱仙台カントリークラブ取締役副社長就任 ㈱仙台カントリークラブ代表取締役社長就任(現)	(注)3	1
専務取締役 支配人	武 田 敏 夫	1954年1月18日生	1972年3月 1995年3月 2003年6月 2006年3月 2008年9月 2009年2月 2009年6月 2011年6月 2019年6月	東北高等学校卒業 ㈱七十七銀行大阪支店次長 ㈱七十七銀行新伝馬町支店長 ㈱七十七銀行本店営業部副部長 ㈱仙台カントリークラブ統轄部長 ㈱仙台カントリークラブ副支配人兼営業本部長 ㈱仙台カントリークラブ取締役支配人就任 ㈱仙台カントリークラブ専務取締役支配人就任 ㈱仙台カントリークラブ専務取締役支配人就任(現)	(注)3	1
取締役	後 藤 久 幸	1941年10月21日生	1964年3月 1983年4月 1983年5月 1999年7月 2002年6月 2005年6月 2008年6月	東北学院大学文経学部経済学科卒業 宮城トヨタ自動車㈱代表取締役社長 ㈱トヨタレンタリース宮城代表取締役社長 ㈱宮城トヨタ商事代表取締役会長(現) トヨタエルアンドエフ宮城㈱取締役会長(現) ㈱仙台カントリークラブ取締役就任(現) 宮城トヨタ自動車㈱代表取締役会長(現)	(注)3	1

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	鈴木 繁 雄	1944年 4月23日生	1967年 3月 1967年 4月 1986年11月 1987年 4月 2001年 7月 2003年 5月 2005年 6月	東北学院大学文経学部経済学科卒業 ㈱七十七銀行 鈴憲味噌醤油㈱代表取締役社長(現) 仙台市議会議員 学校法人聖和学園理事長(現) 仙台市議会議長 ㈱仙台カントリークラブ取締役 就任(現)	(注) 3	1
取締役 コース管理部長	遊 佐 幸 藏	1956年 6月 9日生	1975年 3月 1992年 1月 1999年10月 2005年 4月 2006年 6月 2007年 6月	東京都立羽田工業高等学校卒業 ㈱ミリアセン センダイ管理部長 兼グリーンキーパー ㈱仙台カントリークラブグリーン キーパー ㈱仙台カントリークラブ管理部 長兼グリーンキーパー ㈱仙台カントリークラブ副支配 人兼グリーンキーパー ㈱仙台カントリークラブ取締役 コース管理部長 グリーンキーパー就任(現)	(注) 3	1
取締役	荒 川 満 政	1950年 1月29日生	1968年 3月 1999年 8月 2006年 3月 2009年 6月 2011年 6月 2012年 6月 2015年 6月	仙台市立仙台工業高等学校電気 科卒業 ㈱ユアテック宮城支社副支社長 兼設備部長 ㈱ユアテック山形支社執行役員 山形支社長 ㈱ユアテック執行役員安全衛 生・品質管理部長 ㈱仙台カントリークラブ取締役 就任(現) ㈱ユアテック上席執行役員安全 衛生・品質管理部長 ㈱ユアテック安全アドバイザー (現)	(注) 3	1
常勤監査役	加 藤 昇	1954年 2月 7日生	1972年 3月 2006年10月 2012年10月 2014年 4月 2016年 4月 2016年 6月	東北高等学校卒業 ㈱仙台銀行宮町支店長 ㈱仙台銀行本店営業部お客様相 談課副部長 保証協会債権回収㈱入社 ㈱仙台カントリークラブ営業統 括部長 ㈱仙台カントリークラブ常勤監 査役就任(現)	(注) 5	-
監査役	増 子 敬 之	1957年 5月 7日生	1980年 3月 1980年 4月 1985年12月 1989年 5月 2004年 4月 2005年 6月 2016年 6月	東北学院大学経済学部経済学科卒 業 積水ハウス㈱入社 八興土地㈱取締役 八興土地㈱代表取締役社長(現) 仙台カントリー倶楽部理事(現) ㈱仙台カントリークラブ常勤監 査役 ㈱仙台カントリークラブ監査役 (現)	(注) 4	2
監査役	千 葉 信 博	1948年 5月29日生	1973年 3月 1995年 6月 2002年 6月 2005年 6月 2008年 6月 2012年 6月 2013年 6月 2014年 4月 2018年 4月	一橋大学法学部卒業 ㈱七十七銀行ニューヨーク支店 長 ㈱七十七銀行取締役本店営業部 長 ㈱七十七銀行常務取締役 七十七リース㈱代表取締役社長 七十七リース㈱代表取締役会長 ㈱仙台カントリークラブ監査役 就任(現) 学校法人聖和学園常務理事 学校法人聖和学園理事(現)	(注) 4	1
計						10

(注) 1 取締役 後藤久幸、鈴木繁雄、荒川満政は、社外取締役であります。

2 監査役 増子敬之、千葉信博は、社外監査役であります。

3 取締役の任期は、2019年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4 監査役の任期は、2017年3月期に係る定時株主総会終結の時から2021年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5 監査役の任期は、2016年3月期に係る定時株主総会終結の時から2020年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

社外取締役及び社外監査役との関係

当社の社外取締役及び社外監査役の間には、人的関係、資本的关系又は重要な取引関係その他の利害関係はありません。

(3) 【監査の状況】

内部監査及び監査役監査の状況

当社は特に内部監査組織を設けていませんが、管理担当取締役が業務全般に亘り管理監督を行っております。また、監査役会においては監査役3名により、会計監査並びに取締役会に出席し経営方針の決定や業務執行の状況を監査すると共に、会計監査人と連携し監査の実効性を確保しています。

会計監査の状況

当社の会計監査については、監査契約を締結している監査法人MMPGエーマックが実施しております。

当事業年度において監査業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については以下の通りです。

監査業務を執行した公認会計士の氏名

代表社員 業務執行社員：門傳基博

代表社員 業務執行社員：久保田果

監査業務に係る補助者の構成

名

監査公認会計士等を選定した理由

当監査役会は、選定にあたって監査役3名が適切な連携の下、会計監査人の選定にあたり会計監査人から提出された「会計監査人の職務の遂行に関する報告資料」を基に検討を行っております。また、過去の監査活動の状況を踏まえ、会計監査人としての専門性、経験等職務遂行能力及び独立性、監査実施体制において問題が無いため、当社の会計監査人として適任と判断しております。

なお、当監査役会は、会計監査人に適正な監査の遂行に支障きたす事由が生じたと認められる場合には、会計監査人の解任又は不再任に関する議案を決定し、当会社取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提出いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役会は監査役全員の同意により会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告します。

監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」（平成31年1月31日 内閣府令第3号）による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56) d (f) i から の規定に経過措置を適用しております。

a . 監査公認会計士等に対する報酬の内容

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
2,800		2,800	

b . その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

c . 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

該当事項はありません。

d . 監査報酬の決定方針

特に方針を定めておりませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

e . 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査計画における監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人MMPGエーマックにより監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社では関連会社及び子会社を有していないため連結財務諸表は作成しておりません。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	347,575	362,558
売掛金	27,026	28,032
商品及び製品	2,971	3,420
原材料及び貯蔵品	8,435	7,926
未収入金	5,738	4,199
前払費用	2,194	2,234
立替金	316	
貸倒引当金	2,980	2,844
流動資産合計	391,278	405,527
固定資産		
有形固定資産		
建物	254,947	258,447
減価償却累計額	85,358	92,538
建物（純額）	169,589	165,909
建物附属設備	90,144	91,242
減価償却累計額	37,318	42,106
建物附属設備（純額）	52,825	49,135
構築物	344,367	344,367
減価償却累計額	207,056	216,163
構築物（純額）	137,311	128,204
機械及び装置	66,839	72,824
減価償却累計額	43,700	47,638
機械及び装置（純額）	23,139	25,185
車両運搬具	99,257	100,006
減価償却累計額	74,515	92,596
車両運搬具（純額）	24,741	7,409
工具、器具及び備品	29,464	33,679
減価償却累計額	21,517	24,745
工具、器具及び備品（純額）	7,947	8,933
コース勘定	1,099,095	1,099,095
土地	587,503	587,503
立木	167,353	167,353
リース資産	36,132	36,132
減価償却累計額	20,160	27,234
リース資産（純額）	15,971	8,897
建設仮勘定		19,980
有形固定資産合計	2,285,478	2,267,608

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
無形固定資産		
ソフトウェア	331	177
電話加入権	269	269
無形固定資産合計	601	446
投資その他の資産		
その他	23,889	30,096
投資その他の資産合計	23,889	30,096
固定資産合計	2,309,969	2,298,151
資産合計	2,701,247	2,703,678
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,716	3,543
リース債務	7,639	7,071
未払金	6,295	8,067
未払費用	10,950	10,521
未払法人税等	8,701	9,991
未払消費税等	9,782	7,750
前受金	55	116
預り金	5,043	4,973
賞与引当金	9,450	9,560
流動負債合計	61,633	61,596
固定負債		
長期預り金	14,460	13,460
リース債務	9,609	2,537
退職給付引当金	7,681	7,997
繰延税金負債	337,906	337,043
固定負債合計	369,657	361,039
負債合計	431,290	422,635
純資産の部		
株主資本		
資本金	770,000	770,000
資本剰余金		
資本準備金	500,000	500,000
資本剰余金合計	500,000	500,000
利益剰余金		
利益準備金	200	200
その他利益剰余金		
買換資産圧縮積立金	785,413	784,072
別途積立金	150,000	150,000
繰越利益剰余金	64,343	76,769
利益剰余金合計	999,957	1,011,042
株主資本合計	2,269,957	2,281,042
純資産合計	2,269,957	2,281,042
負債純資産合計	2,701,247	2,703,678

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
営業収益		
ゴルフ場収入	455,871	474,680
年会費収入	23,081	23,586
手数料収入	22,100	18,450
営業収益合計	501,052	516,716
営業費用		
役員報酬	14,800	14,600
給料	181,495	188,505
賞与引当金繰入額	9,450	9,560
法定福利及び厚生費	29,409	29,746
貸倒引当金繰入額	756	389
消耗品費	3,859	6,433
修繕費	22,880	13,239
水道光熱費	18,042	19,229
租税公課	22,589	23,145
その他の原価	38,896	44,001
地代家賃	1,986	1,986
減価償却費	53,942	53,550
その他の経費	93,703	94,614
営業費用合計	491,811	499,002
営業利益	9,241	17,714
営業外収益		
受取利息	9	9
雑収入	1,297	2,086
営業外収益合計	1,307	2,096
営業外費用		
雑損失	463	278
営業外費用合計	463	278
経常利益	10,084	19,531
特別利益		
受取保険金	1 3,882	
特別利益合計	3,882	
税引前当期純利益	13,967	19,531
法人税、住民税及び事業税	7,606	9,308
法人税等調整額	736	862
法人税等合計	6,870	8,446
当期純利益	7,096	11,085

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	770,000	500,000	500,000
当期変動額			
当期純利益			
買換資産圧縮積立金の取崩			
当期変動額合計			
当期末残高	770,000	500,000	500,000

	株主資本					株主資本合計	純資産合計
	利益剰余金						
	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
		買換資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	200	786,748	150,000	55,911	992,860	2,262,860	2,262,860
当期変動額							
当期純利益				7,096	7,096	7,096	7,096
買換資産圧縮積立金の取崩		1,335		1,335			
当期変動額合計		1,335		8,432	7,096	7,096	7,096
当期末残高	200	785,413	150,000	64,343	999,957	2,269,957	2,269,957

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	770,000	500,000	500,000
当期変動額			
当期純利益			
買換資産圧縮積立金の取崩			
当期変動額合計			
当期末残高	770,000	500,000	500,000

	株主資本						純資産合計
	利益剰余金					株主資本合計	
	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
		買換資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	200	785,413	150,000	64,343	999,957	2,269,957	2,269,957
当期変動額							
当期純利益				11,085	11,085	11,085	11,085
買換資産圧縮積立金の取崩		1,340		1,340			
当期変動額合計		1,340		12,425	11,085	11,085	11,085
当期末残高	200	784,072	150,000	76,769	1,011,042	2,281,042	2,281,042

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月31日)	当事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	502,889	519,544
原材料又は商品の仕入れによる支出	38,951	44,623
人件費の支出	235,055	242,900
その他の営業支出	155,610	157,006
小計	73,272	75,014
利息の受取額	9	9
法人税等の支払額	4,329	8,501
営業活動によるキャッシュ・フロー	68,952	66,523
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	21,283	35,525
保険積立金の積立による支出	7,268	7,366
投資その他の資産の増減額(は増加)	2,005	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	30,556	42,900
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	7,571	7,639
その他の支出	600	1,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,171	8,639
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	30,224	14,982
現金及び現金同等物の期首残高	247,350	277,575
現金及び現金同等物の期末残高	277,575	292,558

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品 最終仕入原価法
原材料及び貯蔵品 最終仕入原価法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物、建物附属設備、構築物	6～41年
機械及び装置、車両運搬具	2～17年
工具、器具及び備品	5～6年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れに備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支払見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(簡便法による期末自己都合要支給額)に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

4 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出し可能な預金からなっております。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」5,580千円は、「固定負債」の「繰延税金負債」と相殺して表示しております。

(貸借対照表関係)

前事業年度(2018年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(2019年3月31日)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

- 1 受取保険金は、2017年8月19日に発生した落雷被害に対応する補償であり、その内容は次のとおりであります。

地中埋設ケーブル工事他損害保険金 3,882千円

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

(株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	1,400			1,400

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

(株)

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式	1,400			1,400

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
現金及び預金勘定	347,575千円	362,558千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	70,000千円	70,000千円
現金及び現金同等物	277,575千円	292,558千円

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産

主として、ゴルフカートに付属する搭載用無線機 / G P S (車両運搬具)及びカート管理用コンピュータ
(工具、器具及び備品)であります。

(2)リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「2 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、基本として自己資金内での資金計画を行っており、資金運用については短期的な預金等に限定しております。そのため、銀行等金融機関からの借入による資金調達はありません。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、クレジット会社への債権及び顧客のプレー費の債権であり、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、その大半がクレジットによる支払いであるため2ヶ月以内には回収可能なものであります。従って、顧客の信用リスクを伴うものは少額であります。期日管理及び残高管理を行い回収懸念の軽減を図っております。未収入金は、主に会員の年会費による債権であります。年会費による債権のリスクに関しては、会員ごとに期日管理及び残高管理を行い、会員の退会のときには滞留した債権を清算することにしており、回収懸念の軽減を図っております。

営業債務である買掛金及び未払金は、ほとんどが2ヶ月以内の支払期日であり、支払については自己資金で賄っており、月次資金繰書を作成し流動性リスクを管理しております。ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、流動性リスクに晒されておりますが、月次資金繰書を作成し管理しております。

デリバティブ取引は、冬季積雪に伴う営業損失の発生リスクに対するヘッジを目的とした天候デリバティブ取引であります。デリバティブの利用にあたっては、取引相手に対する信用リスクを軽減するために、格付の高い相手先と取引を行っております。

なお、デリバティブ取引は内部管理規程に従い実施計画を作成し、取締役会の決裁を経た上で行うこととしております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次の表には含まれておりません((注2)を参照ください。)

前事業年度(2018年3月31日)

	貸借対照表計上額() (千円)	時価() (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	347,575	347,575	
(2)売掛金	27,026	27,026	
(3)未収入金	5,738	5,738	
資産計	380,339	380,339	
(1)買掛金	3,716	3,716	
(2)未払金	6,295	6,295	
(3)リース債務()	17,249	17,249	
負債計	27,260	27,260	
デリバティブ取引			

()流動負債と固定負債のリース債務を合算して表示しております。

当事業年度(2019年3月31日)

	貸借対照表計上額() (千円)	時価() (千円)	差額 (千円)
(1)現金及び預金	362,558	362,558	
(2)売掛金	28,032	28,032	
(3)未収入金	4,199	4,199	
資産計	394,789	394,789	
(1)買掛金	3,543	3,543	
(2)未払金	8,067	8,067	
(3)リース債務()	9,609	9,609	
負債計	21,220	21,220	
デリバティブ取引			

()流動負債と固定負債のリース債務を合算して表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びにデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)売掛金、並びに(3)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負 債

(1)買掛金、並びに(2)未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)リース債務

ファイナンス・リース取引のリース資産総額に重要性が乏しいと認められるため、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	2018年3月31日	2019年3月31日
固定負債(長期預り金)	14,460	13,460

上記については、家族会員の預託金であり、返済時期となる退会時を予測することは不可能であり、時価を把握することが極めて困難と認められるため、貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額の表には含めておりません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額
前事業年度(2018年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	347,575			
売掛金	27,026			
未収入金	5,738			
合計	380,339			

当事業年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	362,558			
売掛金	28,032			
未収入金	4,199			
合計	394,789			

(注4) リース債務の決算日後の返済予定額
前事業年度(2018年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	7,639	7,071	822	822	822	68
合計	7,639	7,071	822	822	822	68

当事業年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	7,071	822	822	822	68	
合計	7,071	822	822	822	68	

(デリバティブ取引関係)

前事業年度(2018年3月31日)

天候デリバティブ取引(積雪日数コールオプション)に係る契約等の金額は、2018年3月25日を以って契約を終了しているため、未決済残高はありません。

当事業年度(2019年3月31日)

天候デリバティブ取引(積雪日数コールオプション)に係る契約等の金額は、2019年3月31日を以って契約を終了しているため、未決済残高はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、給与規則に基づく退職一時金制度を採用しております。

退職一時金制度(非積立型制度であります。)では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した退職一時金制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	7,240	7,681
退職給付費用	1,020	1,036
退職給付の支払額	579	720
退職給付引当金の期末残高	7,681	7,997

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(単位:千円)

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
非積立制度の退職給付債務	7,681	7,997
貸借対照表に計上された負債の額	7,681	7,997
退職給付引当金	7,681	7,997
貸借対照表に計上された負債の額	7,681	7,997

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前事業年度1,020千円 当事業年度1,036千円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	2,889千円	2,923千円
賞与引当金に係る社会保険料	456千円	465千円
未払事業税	1,322千円	1,513千円
退職給付引当金	2,348千円	2,445千円
その他	1,056千円	997千円
繰延税金資産小計	8,073千円	8,345千円
評価性引当額	千円	千円
繰延税金資産合計	8,073千円	8,345千円
繰延税金負債		
買換資産圧縮積立金	345,980千円	345,389千円
繰延税金負債合計	345,980千円	345,389千円
繰延税金負債の純額	337,906千円	337,043千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
法定実効税率	30.8%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.0	1.1
住民税均等割	16.8	12.0
その他	0.4	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	49.2	43.2

(持分法損益等)

前事業年度、当事業年度とも関連会社に対する投資がないため記載しておりません。

(資産除去債務関係)

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)及び当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は賃借している土地の上に給水施設を建設しており、土地の賃貸借契約を解約した場合には原状回復義務が付帯されておりますが、当該契約は、自動更新であり、かつ、ゴルフ事業以外の利用は不可能なことから契約解除となる蓋然性が極めて低く、発生時期を合理的に見積ることが出来ないため資産除去債務を計上しておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当社は、ゴルフ事業及びこれに付帯する業務の単一事業であり、開示対象となる事業セグメント情報がないため、記載しておりません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

当社は、ゴルフ事業及びこれに付帯する業務の単一事業であり、開示対象となる事業セグメント情報がないため、記載しておりません。

【関連情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)及び当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)及び当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)及び当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)及び当事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額の算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (2018年3月31日)	当事業年度 (2019年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	1,621,397円86銭	1,629,316円10銭
(算定上の基礎)		
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	2,269,957	2,281,042
普通株式に係る純資産額(千円)	2,269,957	2,281,042
普通株式の発行済株式数(株)	1,400	1,400
1株当たり純資産の算定に用いられた普通株式の数(株)	1,400	1,400

項目	前事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	当事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益金額	5,068円95銭	7,918円23銭
(算定上の基礎)		
当期純利益(千円)	7,096	11,085
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	7,096	11,085
普通株式の期中平均株式数(株)	1,400	1,400

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	254,947	3,500		258,447	92,538	7,180	165,909
建物附属設備	90,144	1,098		91,242	42,106	4,787	49,135
構築物	344,367			344,367	216,163	9,107	128,204
機械及び装置	66,839	5,984		72,824	47,638	3,938	25,185
車両運搬具	99,257	748		100,006	92,596	18,080	7,409
工具、器具及び備品	29,464	4,214		33,679	24,745	3,228	8,933
コース勘定	1,099,095			1,099,095			1,099,095
土地	587,503			587,503			587,503
立木	167,353			167,353			167,353
リース資産	36,132			36,132	27,234	7,074	8,897
建設仮勘定		19,980		19,980			19,980
有形固定資産計	2,775,106	35,525		2,810,632	543,024	53,396	2,267,608
無形固定資産							
ソフトウェア	2,723			2,723	2,545	154	177
電話加入権	269			269			269
無形固定資産計	2,992			2,992	2,545	154	446

(注) 当期増加額の主なものは、次のとおりであります。

建物	男子浴室天井工事	3,500千円
機械及び装置	コース作業機械(2台)	4,920千円
建設仮勘定	散水用井戸掘削工事	19,980千円

【借入金等明細表】

当事業年度期首及び当事業年度末におけるリース債務の金額が当事業年度期首及び当事業年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	2,980	2,844	526	2,454	2,844
賞与引当金	9,450	9,560	9,450		9,560

(注) 貸倒引当金の当期減少額「その他」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額2,454千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

当事業年度末(2019年3月31日現在)における主な資産及び負債の内容は次のとおりである。

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	3,957
預金	
普通預金	288,600
定期預金	70,000
計	358,600
合計	362,558

売掛金

相手先	金額(千円)
(株)七十七カード	18,899
三井住友カード(株)	5,495
ユーシーカード(株)	1,592
三菱UFJニコス(株)	613
その他	1,430
合計	28,032

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
27,026	365,624	364,618	28,032	92.8	27.4

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品及び製品

品名	金額(千円)
レストラン仕入	787
売店仕入	2,632
合計	3,420

原材料及び貯蔵品

品名	金額(千円)
キャディ服他	1,806
燃料ガソリン他	1,492
肥料薬品	1,465
その他	3,162
合計	7,926

買掛金

相手先	金額(千円)
(株)カネサ藤原屋	603
服部コーヒーフーズ(株)	428
(株)サトー商会	354
(株)トーチク	305
(株)吉岡屋	279
その他	1,571
合計	3,543

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	1株券
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	該当なし
株式の名義書換え	
取扱場所	宮城県名取市愛島笠島字南北沢1-8 株式会社仙台カントリークラブ 総務係
株主名簿管理人	宮城県名取市愛島笠島字南北沢1-8 株式会社仙台カントリークラブ 総務係
取次所	なし
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料
公告掲載方法	官報
株主に対する特典	なし

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類	事業年度 (第58期)	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年6月27日 東北財務局長に提出。
(2) 半期報告書	(第59期中)	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	2018年12月25日 東北財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2019年6月15日

株式会社仙台カントリークラブ
取締役会 御中

監査法人MMPGエーマック

代表社員 業務執行社員	公認会計士	門 傳 基 博
代表社員 業務執行社員	公認会計士	久 保 田 果

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社仙台カントリークラブの2018年4月1日から2019年3月31日までの第59期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社仙台カントリークラブの2019年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。